

第四十四話 平成三十年五月七日

あと20年後

[心の丈]は見えにくい、 「思いの丈」も計りにくい。
明治18年のメートル条約加盟以前に戻り、尺貫法に戻したら
[心の丈]や「思いの丈」の目盛も見えてくるのではなかろうか。
<近代>の尺度でモノを見、考えていくと、見えていたものが見えなくなった。

シンギュラリティの<未来>に目を向けるワカゾウは
<近代>を疑いはじめる。
近ごろのワカゾウ学者センセイ曰く
猫も杓子も一票持つようになってポピュリズムに墮ちた。

大正14年前のいわゆる普通選挙前の
地租と所得税15円以上収める満25才以上の男性だけの一票に戻したら
ポピュリズムは芸能だけで選挙からは失せるではなかろうか。

大東亜戦争も、あのような終わり方はしなかったのではなかろうか。
敗戦後の平和念仏も起りはしなかったのではなかろうか。

老人の「なかったのではなかろうか」節を聴かせるつもりでない。

時代は変わる、回る。老人が劣化と嘆くことは容易い。
ワカゾウたちは適応策を巡らす。

日本のワカゾウたちが尺貫法に目覚める日は必ず来る。
日本のワカゾウたちが誰もが一票を止める日は必ず来る。
日本列島が特殊ゆえ、日本が世界の最先端を走ると氣附く日は必ず来る。

そうなったとき、いまの老人の出番だ。
あと20年後か。